

カルメル霊性センター（月刊）

2000（平成12）7月号

2000. 9

霊性センターニュース

147号



霊性センターカルメル

断想(151)

ヘンリーナーウエン「旅路の糧」(25)

みことばのひびき

詩

大聖年の祈り

フォコラーレニュースより

諸所の企画についてのご紹介

短歌

お願い

〒611 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

宇治聖マリア修道院(黙想)

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

1971年10月1日発行

発行所：東京府立総合資料館

9.0002

スーエニーと村霊

岸下トシ



スーエニーと村霊

(1) 巻頭

『スーエニーと村霊』とスーエニー

とスーエニー

岸下トシ

東京府立総合資料館

東京府立総合資料館

東京府立総合資料館

東京府立総合資料館

東京府立総合資料館

霊性センターカメル

1. 聖書深読黙想会

(1)上野毛聖テレジア修道院（黙想）(2000年黙想会年間スケジュールのページを
ごらんください)。

(2)宇治聖テレジア修道院（黙想）（2000年黙想会年間スケジュールのページを
ごらんください）。

(3)名古屋（比野教会）

連絡：小林 厚 〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115

(4)大分聖テレジア修道院（黙想）

連絡：富田恵子 〒870-1125 大分市上宗方1803-3 TEL. 0975-41-4012

(5) a. 通信聖書深読

朝日カルチャーセンター（東京新宿）が通信講座のなかに「聖書深読」を
組み入れてくださることになりました。ご希望の方は下記にご連絡ください。

連絡：北野真弓 〒163-0201東京都新宿区住友ビル私書箱22

TEL. 03-3344-2527

*「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎）。オリエンス宗教研究所出版。

定価 1000円。下記に直接ご注文下さい。3冊以上注文されれば 20 %引。

オリエンス宗教研究所

FAX. 03-3325-5322

〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 TEL. 03-3322-7601

b. 聖書深読（通信） *有光信子 連絡TEL. FAX. 0798-67-8132

9/10. 年間23主日 マルコ 7.31-37

10/8 年間第27主日 マルコ 10.2-16

11/12 年間第32主日 マルコ 12.38-44

2. 聖書と念祷の集い

指導 星野神父

日時：9/9（土）. 3:30~

*急に変更になることもあります。その時は各自念祷をして御帰りください。

2000年 カルメル修道会東京・上野毛聖テレジア修道院（黙想）

§ 黙想会年間スケジュール §

1. 信徒と奉獻生活者のための個人指導黙想会

スタッフ 星野正道師、福田正範師（以上カルメル会）

Sr. 中川享子（ケベックカリタス会）、他

(1) 6月 1日（木）4時から10日（土）朝食

(2) 10月20日（金）4時から29日（日）朝食

全期間参加の方優先ですが二泊からの部分参加も可能。

詳しくは申込用紙を御請求ください。

2. 奉獻生活者のための黙想会

(1) 7月24日（月）4時から8月2日（水）朝食 福田正範師

(2) 8月11日（金）4時から20日（日）朝食 山田裕於師

(3) 12月26日（火）4時から翌年1月4日（木）朝食 福田正範師

3. 聖書深読黙想会：次の各土曜の夕食から日曜の16時30分まで

(1) 4月15日から16日 奥村一郎師（了）

(2) 7月 1日から 2日 ”

(3) 9月30日から10月1日 ”

(4) ~~11月25日から26日~~ ”

9月 2日から 3日

(5) 12月16日から17日 星野正道師

2001年

(6) 1月27日から28日 奥村一郎師

(7) 3月31日から 4月1日 星野正道師

4. ウェンズデイ・リトリート

スタッフ：星野正道師

「キリスト教再確認」

（音楽瞑想、講話、分かち合い、ミサ、etc.）

(1) 5月17日（水）10時から16時

(2) 6月14日（水） ”

(3) 7月 5日（水） ”

(4) 10月11日（水） ”

(5) 11月 1日（水） ”

5. ウィークエンド・リトリート 新井延和師 (カルメル会)

(最初の日の夕食をすませてから集合。どなたでも参加できます。)

- (1) 4月28日(金) 20時から30日(日) 15時 「復活」
- (2) 10月13日(金) " 15日(日) " 「アビラの聖テレジア」

6. 特別企画黙想会：いずれも通い可

- (1) 5月 9日(火) 夕食から11日(木) 昼食 アロイジオ師
- (2) 12月 1日(金) 夕食から 3日(日) 昼食 チプリアノ師
- (3) 2001年1月16日(火) 夕食から18日(木) 昼食 奥村一郎師

7. 大祭日のミサにあずかるために：チェックイン 午後3時から

(講話なし) チェックアウト午前10時まで

- (1) 復活祭 4月22日(土) 夕食なし～23日(日) 朝食
- (2) クリスマス12月24日(日) 夕食なし～25日(月) 朝食

以上、1. から7. までの申込はカルメル会上野毛聖テレジア修道院へ。

皆さんが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

カルメル会上野毛聖テレジア修道院 (黙想)

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

TEL. 03-5706-7355 お急ぎの場合 03-3704-2171

FAX. 03-3704-1764

8. 青年黙想会 (35歳までの男女) スタッフ：カルメル会士

- (1) 5月13日(土) 16時から14日(日) 16時

希望者には5月12日(金) 20時から始まるプログラムもあります。

その場合は最初の日の夕食をすませてから集合してください。

- (2) 11月 3日(祭・金) 12時、昼食から 5日(日) 16時

青年黙想会のお問い合わせ、申込はハガキかFAX で下記まで。

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25カルメル会

青年黙想会担当神学生 FAX. 03-3704-1764

2000年 大聖年 黙想会 案内



聖書深読黙想会

| | |
|----------------------------|----------|
| 1月15日(土)6:00PM ~ 16日(日)午後 | 奥村一郎神父担当 |
| 2月 5日(土)6:00PM ~ 6日(日)午後 | 中川博道神父担当 |
| 4月15日(土)6:00PM ~ 16日(日)午後 | 中川博道神父担当 |
| 5月27日(土)6:00PM ~ 28日(日)午後 | 新井延和神父担当 |
| 7月 8日(土)6:00PM ~ 9日(日)午後 | 奥村一郎神父担当 |
| 12月16日(土)6:00PM ~ 17日(日)午後 | 新井延和神父担当 |

男子青年のための黙想(高校生以上~35歳まで)

| | |
|--------------------------------|----------|
| 6月 3日(土)5:00PM ~ 4日(日)4:00PM | カルメル会士担当 |
| 11月25日(土)5:00PM ~ 26日(日)4:00PM | |

女子青年のための黙想(高校生以上 ~ 35歳まで) 中川博道神父・カルメル宣教修道女会

| |
|--------------------------------|
| 2月20日(日)一日黙想 10:00AM~4:00PM |
| 5月20日(土)5:00PM ~ 21日(日)4:00PM |
| 11月18日(土)5:00PM ~ 19日(日)4:00PM |

一般のための黙想

| | | |
|-------|-------------------------------|-----------------|
| ・週末黙想 | 1月29日(土)5:00PM ~ 30日(日)4:00PM | 中川博道神父 |
| | 5月13日(土)5:00PM ~ 14日(日)4:00PM | 奥村一郎神父 (但し男性のみ) |
| | 6月17日(土)5:00PM ~ 18日(日)4:00PM | 北村善朗神父 |

・日曜一日黙想 10:00AM~4:00PM 中川博道神父

4月9日 (テーマ) 『復活』
11月5日 (テーマ) 『日常生活の中の三位一体』

・幼いイエスの聖テレジア黙想 伊従信子氏(ノートルダム・ド・ヴィ)
(テーマ)『大聖年の恵みを生きる』 テレーズと共に〔死後のテレーズの働き:毎天記念日に〕
9月30日(土)4:00PM ~ 10月1日(日)3:00PM

・2泊3日の黙想 伊従信子氏(ノートルダム・ド・ヴィ)
(テーマ)『大聖年の恵みを生きる』 テレーズと共に(慈しみの愛に身をささげた記念日に)
6月9日(金)PM4:00~11日(日)PM4:00

・グレゴリオ聖歌黙想会 花井哲郎氏・中川博道神父
12月1日(金)4:00PM~12月3日(日)4:00PM (合唱経験者対象)

| | | |
|---------|------------------|-------------------------|
| ・木曜 黙想会 | 10:00AM ~ 4:00PM | |
| | 1月20日 | 一年の霊的歩みのプログラム 中川博道神父 |
| | 2月17日 | 四旬節 中川博道神父 |
| | 3月16日 | 聖ヨゼフの月 新井延和神父 |
| | 4月20日 | 復活 中川博道神父 |
| | 5月18日 | 聖母マリア 新井延和神父 |
| | 6月15日 | イエスの聖心 アロイジオ神父 |
| | 7月13日 | カルメル山の聖母マリア 新井延和神父 |
| | 10月26日 | 祈り:アビラの聖テレサをとうして 中川博道神父 |
| | 11月16日 | 待降節・死 新井延和神父 |
| | 12月12日(火曜日) | クリスマス 北村善朗神父 |

奉獻生活者の黙想

| | |
|-----------------------------|--------------------|
| 7月24日(月)5:00PM ~ 8月2日(水)朝食 | 中川博道神父 |
| 8月 5日(土)5:00PM ~ 8月14日(月)朝食 | 金子尚志神父(フランススコ会修練長) |
| 12月27日(水)5:00PM ~ 1月5日(金)朝食 | チブリアーノ神父 |



宇治カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

〒611-0002 宇治市木幡御蔵山39-12
Tel 0774-32-7016 / Fax 32-7457

最寄の駅:JR奈良線 木幡駅 or 六地藏駅 / 京阪宇治線 木幡駅 or 六地藏駅

T. T. クラブ

～10代・20代の 青年たちの集い～

カルメル会で10代・20代の青年たちの集い『T. T. クラブ』を行っています。このクラブの特徴は、福音や、現代の話題を使って、祈り、お互いの話を聞く、自分の意見を話す、また伝わってくるものを感じ取る、自分の感性を表現するということを中心に置きます。その中で、お互いの神様から頂いた“宝”を発見し、よりよく人々と共に生きていく可能性をさがしていければと願っております。

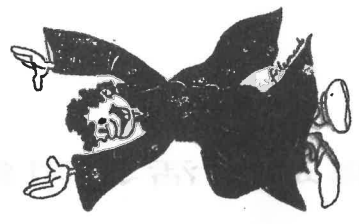
ぜひ、参加してみてください。わたしたどもスタッフは心からお待ちしております。

- 第36回 3月25日 (土) 「歌謡曲で祈る パートⅠ」 1
- 第37回 4月 1日 (土) 「新聞で祈る」 ”
- 第38回 4月15日 (土) 「主の祈り」 ”
- 第39回 5月 6日 (土) 「政治」 ”
- 第40回 5月27日 (土) 「安息日一忙しさからの解放」 ”

- 第41回 6月10日 (土) 「こんぴゅーたー」
- ~~第42回 6月24日 (土) 「洗者ヨハネから学ぶ」~~
- 第43回 7月 1日 (土) 「パンクエット」
- 第44回 9月 9日 (土) 「歌謡曲で祈る パートⅡ」

- *時間 いずれも P.M.7:00 から P.M.9:00 まで
- *対象 10代・20代の青年たち
- *スタッフ カルメル会士
- *場所 カトリック上野毛教会 信徒会館 1F
- *プログラム
 - 7:00~7:15 はじめの集い みんなで讃美歌を歌うetc.
 - 7:15~7:30 テーマの解説
 - 7:30~8:00 祈りの時間 (沈黙の祈り) 聖堂や会館で
 - 8:00~ 祈ったことのこと分かち合い

9:00 解散
 ○ カトリック教会のカテキズム
 ○ ともに祈る時



カルメル修道会 T. T. クラブ 係

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25
 電話 03 (3704) 2171

修道生活、司祭生活を考える若者の集い

NO. 16

この修道生活、司祭生活を考える若者の集いも皆様のご協力で小さなあゆみをつづけております。この集いは特定の修道会へのおさそいの集まりではありません。教会生活を送って行く中で今までとはちがう生き方もあるのではないか、とと思っている若者がひとりぼっちでひざをかかえているのはよくない、同じように感じている仲間と出会い、ともに祈りながらあゆんで行けたら何かが見えてくるのではないか、ということで始まりました。もし君がそんなひとりだったらぜひ来てみませんか。

*日時 9月10日(日) 10時から16時まで、昼食は各自お持ちください。

*対象 30才くらいまでの独身男女青年

*スタッフ カルメル会司祭 星野正道

*費用 1000円

*内容 主日ミサ、講話、質問コーナー、個人面談等

*持って来るもの 聖書、ロザリオ、筆記用具、昼食等

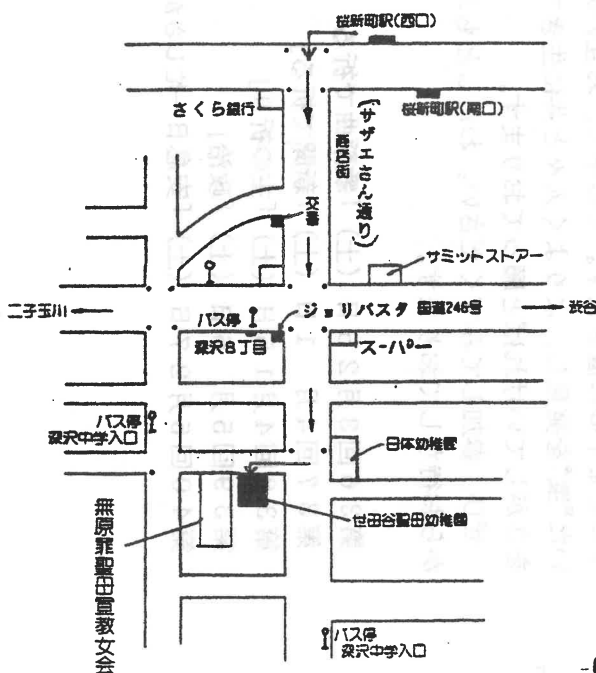
*連絡先 158-0093 世田谷区上野毛2の14の25 男子カルメル修道会

星野正道神父 TEL 03-3704-2171 申し込みの必要はありません。

*会場 無原罪聖母宣教女会修道院 158-0081 世田谷区深沢8の13の16

東急田園都市線桜新町駅下車

TEL 03-3701-3295



〈地下鉄〉

① 渋谷駅より
田園都市線(二子玉川方面)
桜新町駅下車 徒歩12分

〈バス〉

② 渋谷駅より 南口
18番のりば(新道経由)
二子玉川駅行) いずれも
高津営業所行) 深沢8丁目下車
徒歩3分

③ 東横線都立大学駅より
成城学園前駅行 深沢中学入口下車
徒歩1分

④ 目黒駅より 深沢中学入口下車
弦巻営業所行 徒歩1分

無原罪聖母宣教女会
〒158-0081
東京都世田谷区深沢8-13-16
☎ 03-3701-3295



黙想会ご案内



— 神の示される道を求めて —

テーマ：修道召命とわたし

日時：10月14日（土）13時受付
～15日（日）16時解散

対象：20～30代の女性信徒

指導：中川 博道 師（カルメル会）

場所：カルメル会「宇治黙想の家-テリア修院-」

費用：5000円（当日会場でお支払い下さい）

定員：15名（定員になり次第締め切りといたします。）

申込み：10月7日（土）迄。（下記宛にお願いします）

* * *

— 神の示される道を求めて —

テーマ：修道召命とわたし

日時：2001年2月10日（土）13時受付
～11日（日）16時解散

対象：20～30代の女性信徒

指導：星野 正道 師（カルメル会）

場所：カルメル会「上野毛黙想の家-テリア修院-」

費用：5000円（当日、会場でお支払い下さい）

定員：15名（定員になり次第締め切りと致します。）

申込み：2月3日（土）迄。（下記宛にお願いします）

☞ 聖ウルスラ修道会「東京修道院」

☎180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町4-27-18

TEL/FAX ; 0422-56-9889（係宛）

2000年度 東京カルメル在俗者会 黙想会

場所 カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

日程

ご指導

- ・ 6月15日（木）夕食 ～ 6月18日（日）昼食 チプリアノ神父様
- ・ 8月24日（木）夕食 ～ 8月27日（日）昼食 アロিজオ神父様
- ・ 9月14日（木）夕食 ～ 9月17日（日）昼食 星野 正道神父様
- ・ 10月 2日（月）夕食 ～ 10月 5日（木）昼食 チプリアノ神父様
- ・ 11月16日（木）夕食 ～ 11月19日（日）昼食 福田 正範神父様

☆空きがある場合には、一般の方も参加できます。おたずねください。

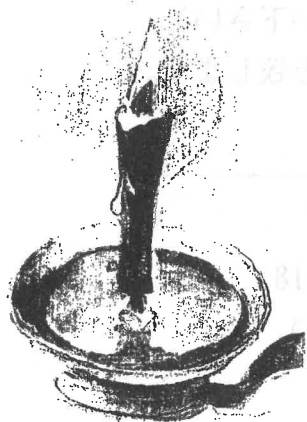
☆お申込み、お問い合わせは下記まで

TEL & FAX 045-562-2296（永瀬）

黙想

蛭田幼一

薄暗い道を歩いた。けさはうらぶれた猫が踞っていた道だ。薄ぼんやりと外燈がともってもいただろうか。忘れてしまった。風が吹いていた。僕は一人だった。だが友だちよ、空の賢治、死んだ父よ、僕はもう一人でないな。ざわざわとする黒い樹影を辿っても、愛する子供たちもいるからな。こんな詩を見たら笑うだろう。これからどうなるか分からない。荒んだ世界、争鬭の歴史はまだまだつづく。だが友だちよ、空の賢治、死んだ父よ、僕はもう一人でないな。



2000 カルメル会 黙想会

ウィークエンド・リトリート

— アビラの聖テレジア —

- * 日時 10月13日(金) 20時 ~ 15日(日) 15時
- * 指導 カルメル会 新井延和師
- * 費用 ￥11,000
- * 最初の日の夕食をすませてから集合。どなたでも参加できます。

カルメル会上野毛聖テレジア修道院 (黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL 03-5706-7355 (お急ぎの方は、03-3704-2171)

FAX 03-3704-1764



宇宙の子守歌 (1 0)

山にはいつわりがない

時期的には、少し後のことになるが、東京修道院にいたころのこと。安保闘争につづく学園紛争で若者が荒れはじめ、大学だけでなく、受験を前にする高校生にも精神的不安がひろがっていた。そんな時でもあったからか、教会にもかなり青年が集まってきていた。それだけに教会の雰囲気にも活気があり、神父たちも、幾つかのグループを分担して講義や研究会や教会音楽の勉強などを指導していた。私のところにも、時々顔をだしていたひとりの男子高校生が余りこなくなっていたのに気付いて、女子大生であった姉にそのことを話した。「ええ、この頃は山登りばかりしています」と、困ったような答え。何とも、それ以上、尋ねようもない。登山は悪いことではない。しばらく黙っていると、「山にはいつわりがないん、ですって?!」とつけ加えた。また、ここでも、ギクッとした。「えっ、山にはいつわりがない・・・だから、山に行く?・・・教会にはこない?勉強にもこない?・・・」さらに言えば、「教会にはいつわりがある。その教えや話しにもいつわりがある。だから、こない」と、言われたようなもの。まだ、若かったせいかな、とにかく、考えさせられてしまった。良心的と言うより、一瞬、反省過剰の自信喪失みたいになった。たしかに、山は誰であってもそのまま黙って受け入れ、黙って送り出す。何も着飾るところがない。春は花、夏は緑、秋は紅葉、冬は雪、山は、自然そのものの美しさをもって包んでくれる。「真善美」の三つは一つ、切り離すことができない。自然の美しさは“あるがまま”と言うこと。「花はなぜうつくしいか。ひとすじの気持ちで咲いているからだ」(八木重吉) 本来、教会も人間もそうでなくてはならないのに。

奥村 一郎



ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』(25)

今という瞬間を精一杯生きること

忍耐は、厳しい修業です。それは、たとえば、バスの到着や雨のやむことや友達の手配や紛争の解決など、私たちにはコントロールできない事柄が起こるまで、ただ待っていることではありません。忍耐とは、誰かが何かをしてくれるまで、受動的にじっと待っていることではないのです。それは、今という瞬間を十全に生きること、今という瞬間に完全に存在すること、今ここにいることを味わうこと、私たちが今いるところに存在することを、私たちに要求しています。私たちが忍耐を失う時、私たちは、私たちが今いるところから逃げ出そうとしているのです。私たちは、本当のことが明日、あるいはもっと後で、別の場所で起こるかのように行動しています。忍耐しましょう。そして私たちが探している宝は、私たちが今立っている場所に隠されていることを信じましょう。

(0105)

死から刺をぬくこと

死は、故郷（ふるさと）へ帰ることです。しかし多くの人から何度このことを説き聞かされても、私たちはめったに故郷へ帰ろうとは望みません。私たちは、今いるところにとどまろうとします。私たちは、今私たちが手にしているものを知っていますが、将来何を得るのかは知りません。死後のもっとも魅惑的なイメージでさえ、死の恐れを取り去ることはできません。人間関係が難しく、経済状態が厳しく、健康状態が最悪である時でさえ、私たちは生命にしがみつきます。

しかしながらイエスは、死から刺をぬくため、死を恐れる必要がないことを私たちに徐々に理解させるために来られました。なぜなら死は、私たちの心のもっとも深い次元の欲求が満たされる所まで、私たちを導いてくれるからです。それを本当に信じることは、たやすくありません。しかし信頼を示すあらゆる小さなしぐさは、この真理へと私たちを近づけてくれるのです。

(0821)

九里 彰訳

年間第 22 主日

「人の中から出て来るものが人を汚す」(マルコ 7 : 20)

夏目漱石に「こころ」という小説があります。人間の心理の深い闇を鋭く描いた傑作だと思います。この小説は人の中から出てくるものが人を汚すということをよく示しています。

主人公である先生は、伝統的道德規範に束縛されない現代人であると自負しています。最高の教育を受けている明治のインテリです。裕福な家に生まれましたが、少年のとき両親をあいっいで亡くしてしまいます。財産の管理を任していた叔父に財産を騙し取られた事がわかったのですが、学生の身分だから裁判は損と考え、減った財産を受け取り、故郷を捨て上京しました。人間不信に陥ってしまったのですが、母一人娘一人の下宿屋で温かく迎えられ、すさんだ心が直っていくのでした。同時にこの娘に恋心を抱くようになっていきます。ちょうどそのころ唯一の親友であるKが養家と断絶して困っていました。Kを助けるために下宿の一部屋を提供し、一緒に暮らし始めたのですが、Kと娘が親しくなっていました。Kに手を引かせるつもりできつい言葉を放ち、たじろがせておいて一方で結婚の意志を母親に伝え、そのことをKに伝えてもらいました。Kはしばらく平静を装っていたのですが、突然自殺してしまいます。遺書には先生をとがめる言葉がなく、ほっとしたものの母娘にはKの自殺の真相を打ち明けられません。先生は親戚に裏切られ、人は信用できないが自分は信じるに足る立派な人間だと考えていました。Kの死によってこの自信が微塵に砕けてしまいました。望む人と結婚できたのに、幸せになれません。学問で世に出ようとしても、自分はそんな値打ちのない人間だという思いが湧いてきて、挫折してしまいます。経済的には困らないものの、喜びと生きがいを失ってしまいました。

妻にKの自殺の真相を告白したら打開できたでしょうが、「妻の記憶に暗黒な一点を印するに忍びない」という理由でしません。死んだ気で生きていくのですが、死ぬ前にたった一人でいいから人を信じて死んでいきたいと思い、親しくなった若者に自分の思いを詳しく書いた手記を残し、Kのように死んでいきます。主人公が自分の心も汚れていると思い、この考えに捕らわれてしまった時、身動きが出来なくなっていました。他者とのつながりがなくなり、もっとも身近な妻とでさえも心の交わりがもてません。孤独地獄に陥ってしまいました。そしてKも失恋でなく、この孤独地獄ゆえに死んだのだと気づきます。

こういう状態にはまりこんでしまった人に対し、あなたもまた美しい心を持っていると納得させ、どうすれば自分の心の美しさを実感できるのかと(この場合は妻にKの自殺の真相を打ち明けること)具体的に導ける人がいます。人間を信頼し、信じることの出来る人です。冷たい鋭いタイプでなく、どこか抜けていて、あたたかく、ほっとさせてくれる人です。このような人は孤独地獄に落ち込んだ人を救い出すことができます。自分の中から出てくる自己卑小感にがんじがらめになっている人を解放することが出来ます。「よい知らせを伝えるものの足はなんと美しいことか」と書いてある通りです。「こころ」の主人公も、そしてたぶん漱石もこのような人にめぐり会えなかったのでしょうか。

自分の中から出てくるものは自分の責任ですが、しかし問題の解決のために手を貸すことは出来ます。

(新井)

年間第23主日

「私たちの多くは霊的に聾啞であり、イエスは癒したいと思っておられる」

耳が聞こえなくて困ることは、耳の聞こえない人たちをほとんどの人が厄介者と思うことです。私たちは目の見えない人とか足の不自由な人には共感しますが、耳の聞こえない人に対してはいらいらし、嫌になります。この結果、耳の聞こえない人は健常者といえることを避けがちになり、だんだん自分の殻に閉じこもるようになります。わたしたちのほとんどは目の見えないほうが耳の聞こえないことよりも不利だと考えます。しかし他方では、耳の聞こえないことの方がずっと大きな障害です。耳が聞こえないなら、正常な世界のたくさんの扉がびしゃりと閉じられています。ラジオをつけても意味がありませんし、テレビを見るのも面白くなく、しばしばうんざりします。隣にいる人との会話もほとんど出来ません。しばらくするとさびしくなり、見捨てられていると感じるでしょう。聾啞の人の窮状は私たち自身の窮状に似てなくもありません。今日私たちの多くは、肉体的にはなく、霊的に聾啞です。

今年休暇でインドに帰ったとき、病院で看護婦として1週間働く機会がありました。重病の女の子がいました。10年前から白血病にかかっています。ある日両親が見舞いにきました。病院から帰る車の中で、母親は泣き始めました。私に向かい、言い始めました。「シスター、私に起きていることをどう考えたらいいかわかりません。10年前なら神に娘のことを話すことができたでしょう。そして神が「大丈夫だ」とお語りのなるのを聞くことが出来たでしょう。しかしもう出来ません。もう祈れません。昔のように神に話しかけることができません。また神の声が聞こえません。突然霊的に聾啞になったかのようです。」

上述の現実是我らたちの多くが関係しうる状況を描いています。わたしたちも昔のように祈るのが困難になっています。わたしたちも神に語ったり、神の声を聞いたりするのが困難になっています。わたしたちが自分のことで精一杯だからです。世間のことがあまりにも気がかりなのです。今日の福音が答えを与えてくれます。私たちは耳が聞こえず舌の回らない人のしたことをすることが出来ます。イエスを探し出し、群衆から離れたところにイエスと一緒にいき、癒しの力をもつイエスの現存の中で時を過ごすことが出来ます。今日の福音は私たちにイエスに霊的に舌のもつれを解いてもらうために舌に触れてもらい、指を耳に入れ、霊的に開いてもらうよう招きます。これはゆるやかな癒しの過程なので、忍耐と希望がいます。日々の生活を聖霊の息吹きに心を開いて生きていきましょう。

今日の福音に出る耳の聞こえない人の話は聾啞の人が癒された後どのように感じたか、洞察を与えてくれます。生まれて始めて、彼は生の一部を感じたのです。このことは私たちにイエスにあの聾啞の人にしたことをわたしたちのためにしていただくために日々の祈りの中で数分間を取っておくよう招きます。そして日々の祈りの中で、イエスに触れてもらい、癒してもらい、もう一度完全なものにしていただくのです。

(Beatrice)

年間第24主日

「自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、私のため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである。」(マルコ8：35)

人は自分の命が一番かわいいものです。この命に対する執着を超え、自分自身を乗り越えていくことは宗教の眼目ともいえます。仏教でも「百尺竿頭なお一步を進む」とか「大死一番絶後に甦る」とか言い、自分の命に対する執着を超えることを説きます。キリストの教えとよく似ています。しかし、一つ決定的に違うところがあります。キリスト者が自分の命を失うのはキリストのため、福音のためであることです。

キリストは道です。キリストは命です。キリストの中に本当の私の命があります。つまり、心からキリストに忠実に従うとき私たちは本当の自分となるのです。キリストは今も生きておられます。2000年前のパレスチナに地上での生を送った主は今も生きておられます。生きて私たちに語りかけ、働きつづけています。キリストを信じるものはこの生きておられるキリスト、人格としてのキリストに出会うのです。キリストは神秘体の中に、人々の中に、困っている人の中にいます。キリストは出来事を通して私たちに語りかけています。キリストはわたしたちの貧しい祈りに答え、魂の深みにおいて語りかけてくださいます。キリストに出会えることはキリスト者の特権です。キリストを受け入れ信じるということは、キリストについての説明を理解することとは違います。生きて働いておられるキリストに出会うことです。

キリストは私たち一人一人の人生の主です。キリストが道であるとは、キリストが唯一の道であるということです(ヨハネ14：6の「私は道である」の道には定冠詞がついています)。たくさんある道(手段、方法)の一つとしてあるのではなく、正にこれしかないというあり方で存在する唯一の道なのです。この道を歩むように私たちは招かれています。

私は最初、キリストを一つの道、手段、方法と考えていました。99%は自分の力で人生を切り拓いていけるが、残りの1%は自分の力以外のものに頼るしかない、それがたまたま出会ったキリストの力であると思っていました。心の平安という自分の力では得にくいものだけを信仰に求めていたのです。それ以外は別に宗教の助けを必要としないと感じていました。私は自分の命を救おうとしていたわけです。ところが実際は私の思惑通りにいくどころかまったく正反対でした。洗礼を受ける前は比較的順調だった私の人生が、世間的には失敗と敗北の連続になってしまい、まったく自信を喪失して生きていく希望も失いかけてしまいました。主の不思議な助けと導きにより長い間かけてようやくわかったのですが、主は私に世間で評価されるような成功をさせることをお望みでなく、ただご自分が私にさせたいことをさせたいだけなのです。それが主の望みであり、私はそれに従いさえすればよいのです。これに気づき、私の魂は安らぎと喜びを得ました。私は「発見」の喜びを味わったのですが、よく考えてみると何度も聖書で読んでいたことなのです。今日のみことばがそうです。苦笑してしまいました。

キリストのゆえに命を失うほど信仰を核として一生を生きるのは、何も司祭、修道者に限ったことではありません。私などよりはるかに深い信仰を生きている信徒の方を何人も知っています。こういう人たちと出会うことは本当に大きな喜びです。

(新井)

年間第25主日

「一番先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人につかえる者になりなさい。」(マルコ9:35)

年老いた修道者が信仰を強めるために神からの示現を長年祈りもとめていました。だが与えられません。ほとんどあきらめかけていたとき、ある日示現が現れました。彼は歓喜しました。しかし、やがてちょうど示現の真っ最中に修道院の鐘が鳴ったのです。この鐘は、修道院の門前に毎日集まる貧しい人々に食べ物を恵む時間であると告げていました。その日は彼がこの仕事をする当番になっていました。彼が食べ物を持っていかなかったら、集まっている人たちはかわいそうに今日はいくれない物がないと思い、黙って去っていくでしょう。老修道者は地上の義務と天からの示現の間で思いが千々に乱れました。しかし、鐘が鳴り終わる前に彼の心は決まりました。いやいやながら、示現に背を向け、貧しい人たちに食べ物を与えに出かけました。1時間ほどたって老修道士は自分の部屋に戻ってきました。扉を開けた時、ほとんど自分の目を信じる事が出来ませんでした。部屋の中には示現があり、彼を待っていたのです。感謝のためにひざまずくと、示現は彼に言いました「我が子よ、もしおまえが貧しい人々に食物を与えに行かなかったら、もう私はいなかったらう。」

この話において、弟子のようにこの修道者がイエスに従うためにすべてを捨てたことがわかります。そして彼はこの世の物質的富に背を向け、来世の霊的富を求めたのです。そしてこれらのことを通して人生でもっとも大切な霊的教訓を得たのです。彼は、神に使える最良の方法は一層基本的なことを行うことであると学んだのです。神に仕える最良の方法は、兄弟姉妹、特に自分ほど恵まれていない人に助けの手を差し伸べることなのです。イエスはこの教えを弟子たちに教え、「一番先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に使える者となりなさい。」と仰いました。

今日の福音には招きと挑戦があります。私たちの生活を調べ、今現在していること～小さなことであれ、大きなことであれ～をどのような奉仕の精神でしているか自問するように招きます。工場で働いていても、学校にいるにしろ、家庭にいるにしろ同じです。

またこれからの1週間のために数分間を割き、今以上の奉仕の精神で仕事をするにはどうしたらよいか真摯に自問するよう要求します。わたしたちが仕えないなら、他人を傷つけます。仕えるなら自分を傷つけます。奉仕には犠牲がつきものだからです。しかしこのディレンマを知らないのは魂の死であり、このディレンマからの自由は永遠の命です。

本当に偉大な人は、「国家に仕えるために私の個人的な賜物と才能をどう使うことができるだろうか」と言える人です。イエスは、その野心が召使になることである人の至高の偉大さと価値について語ったとき、世のもっとも偉大な実際の価値の一つを規定したのです。

(Beatrice)

人は愛する時、清い

(マルコ7・15)

外から人の体に入るもので人を汚すことができるものは何もなく、人の中から出て来るものが、人を汚すのである。

このイエスの言葉を聞いていた人々は、旧約聖書や律法に記されていた規則をよく知っていました。神殿の聖域に近づくため必要とされていた、それらの規則は、このマルコ福音書にも出てくるように(*1)、自分の身を清める、使う物を洗うなどさまざまな取り決めから成るものでした。このような清めの行為は、本来、人の精神的・内面的な清さを表現するものとして定められていました。しかし実際は、その真の意味は忘れられ、人々は、数え切れないほど多くの規則を、ただ形式的に守ることだけに気を遣っていました。

外から人の体に入るもので人を汚すことができるものは何もなく、人の中から出て来るものが、人を汚すのである。

このイエスの言葉は、ユダヤの律法に相反するものではありませんが、当時の社会を考えると、イエスの態度は世の流れに逆らう、大変勇氣あるものだったと言えるでしょう。預言者たちが世々にわたり、民に告げ知らせてきた「真の礼拝」を、イエスはここで改めて人々に思い起こさせているのです。すなわち、規則を守るに当たっても、汚れているとされた食物や物に触れないなど、外面的なことだけに気を遣うのではなく、内面的な意識をしっかりとって行う、ということです。

イエスの教えや姿勢に共通して言えることですが、ここでイエスは、律法を「廃止する」のではなく、「完成する」(*2)ことを望んでおられます。つまり「人が神に近づくのを助ける」という律法の深い意味と本来の目的を、明らかにしておられるのです。

外から人の体に入るもので人を汚すことができるものは何もなく、人の中から出て来るものが、人を汚すのである。

「…人の中から出て来るものが、人を汚すのである。」

言葉の後半部では、本当に人を汚すものが示されています。すなわち、外から入るものではなく、中から出るものが、人を汚すのです。人の心・内面から、いろいろな考えや「悪い思い」が出てきて、「みだらな行い、盗み、殺意、姦淫、貪欲、詐欺、好色、ねたみ、悪口、傲慢、無分別」（*3）を生み出します。

人が神の似姿に造られたという、創造の業の素晴らしさを、イエスはよくご存じですが、同時に、人が悪への傾きを持つ存在であることも、知っておられます。それゆえイエスは、人が回心するよう求めておられるのです。

今月のみ言葉は、イエスが倫理面において厳しい姿勢を持っておられることを、はっきりと示しています。イエスは私たちの心が、清く誠実なものであるよう望んでおられます。そのような心からは、泉から湧き出る清い水のように、良い業、正しい行いが生まれてきます。

外から人の体に入るもので人を汚すことができるものは何もなく、人の中から出て来るものが、人を汚すのである。

では今月のみ言葉を、どのように生きることができのでしょうか。

人を汚し、神との交わりから遠ざけてしまうのは、物質や食べ物など外から来るものではなく、人間自身です。人の心や判断が、そうさせるのです。そこでイエスは、私たちが自分の行いや態度について、なぜそのようにしたのかを、振り返ってみることを望んでおられます。

私たちの行いのすべてが「清いもの」となるためには、その一つひとつををただ「愛ゆえに」行うことだ、とイエスは教えてくださいました。

人は愛する時、罪を犯さず、殺さず、中傷せず、盗まず、裏切ることがあります。

それでは一日中、愛に導かれて生きるよう努めましょう。神への愛、兄弟姉妹への愛を心の中心において、生きることです。そうすれば私たちは、百パーセント真正銘のキリスト者であると言えるでしょう。

キアラ・ルービック

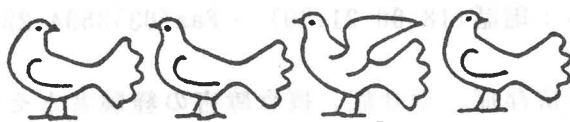
- * 1 マルコ 7・3～4 参照
- * 2 マタイ 5・17 参照
- * 3 マルコ 7・21～22

フォコラーレ本部

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西 1-11-4

TEL. 03-5370-6424

FAX. 03-5370-3055



大 聖 年

— キリスト年の祈り —

主イエス、わたしたちをして、

真心こめて福音を、生きさせてください。

福音的貧しさを、大切にさせてください。

現代社会の悪習から救ってください。

苦難の中にある人々に、仕えることのできる者

にならせてください。

み母マリア、御子イエスに従って十字架の道
を歩めるよう、わたしたちを助けてください。

アーメン

たかとし ひらかず

諸所の企画についてのご紹介

I. ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会)

場 所：〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-35 Tel(03)3594-2247

*いのちの泉へ 大聖年にあたって新しく歩む祈りの道

2000年 10/21. (土) 様々な祈り

11/18. (土) 祈りの難しさ

12/16. (土) 聖性への招き

2001年 1/20. (土) 信仰による神との一致

2/17. (土) 感謝(ユカリスチア)の祈り

3/17. (土) 復活への道

講師：伊従 信子(ノートルダム・ド・ヴィ 会員)

プログラム：午後2時～午後5時半。講話、祈り、お茶&質問の時間。ミサ(日曜

日のミサ)申し込み：電話(18:00-21:30)・Fax(03)3594-2254。参加費：200円

スズランハウス

女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族のためのウェルビーイングを研究開発実践する施設。：詳細を知りたい方は、下記へ

〒192-0041八王子市中野上町4-27-4 TEL 0426-28-3222 井口 貴志

III. 風の家

指 導：井上 洋治 師(東京教区司祭)

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『風』編集者

*新住所 〒700-0808 岡山市大和町1-11-17

Tel・FAX 086-227-5665 詳細はお電話でお尋ね下さい。

IV. 生命山カトリック別院

〒865-0133熊本県玉名郡菊水町蜻浦1391-7 TEL.0968-85-3100

黙想会 指 導：フランコ神父 ・ 園田善昭神父

(1)8月7日(月)～8月15日(火) (2)8月17日(木)～8月25日(金)

開始 17:00時 終了 朝食後

諸宗教対話活動 仏教者との交流

21世紀に向けて第4回宗教者平和の祈りの集会

*日時：10月8日 午後 *場所 生命山カトリック別院

祈りの集い 年間テーマ「私を見た者は父を見たのである」

(10:00～15:00) 9/14. 10/12. 11/9. 12/14 (木)

*このほか、個人、グループでも静修、黙想会などができます。

お申し込みは生命山別院へ

V. 瞑想の家 東光庵

指 導：ヨハネ・ウマンス師(神言会) *詳細問い合わせは電話で

場 所：〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷1-38-13 TEL 03-3336-0735

VI. リーゼンフーバー神父による研究会 (1999~2000年)

①キリスト教入門講座

日 時：金曜日 18:45 ~ 20:30

場 所：聖イグナチオ教会信徒会館 3階アルペホール

対 象：キリスト教を学び、信仰を自分自身の問題として考えたい方
どなたでも。予備知識は必要ありません。

8/25 イエスの復活—今に生きるイエス

9/1 聖書のイエス像—ヨハネの見たイエス

9/8 聖霊—神のを受ける

9/15-17 * 黙想会

9/22 祈りの本質とさまざまな祈り方—神と関わる

9/29 洗礼と堅信—イエスに結ばれて生きる

10/6 教会の成立と意味—イエスを中心に生きる

10/13 人間としてのイエス—新しい人間像の基礎付け

②神学読書会 日 時：毎月第2・第4 (第5)水曜日 18:30~20:30

場 所：SJハウス第5会議室 要申込み、定期的参加

対 象：キリスト教の基本的知識を持っている20代~30代の方。

③聖書研究会* 日 時：毎月第1・第3水曜日 18:30 ~ 20:00

場 所：S. J. ハウス第5会議室

内 容：日曜日の聖書箇所を読んで一緒に考える。どなたでも。

* 日 時：木曜日 12:40 ~ 13:25

場 所：上智大学7号館 316号研究室

内 容：新約聖書を1章ずつ読んで話し合います。

④坐禅会 日 時：月曜日 17:20~20:10 木曜日 18:00~20:30

場 所：クルトゥムハイム1階左の部屋 3回坐り、間に講話があり。

どなたでも。遅刻、不定期参加も可。

関東 10/31 (火) 夜 ~ 11/5 (日) 16:00 秋川神瞑窟 一泊2400円程度

2001. 2/17 (土) 8:30~ 18 (日) 16:00 上石神井 5.400

8/1 (火) 17:30 ~ 7 (月) 13:00 宝塚市②

連絡先：①シスター朝山 TEL. 0727-59-3742 ②岸本 正 TEL 078-583-3067

⑤ミサ：水曜日 17:10~18:00 場所：上智大学内クルトゥムハイム1階右小聖堂

⑥黙想：毎月第2. 第4火曜日 18時45分~20時

水曜日 18:00~18:30 場所：上同じ (ミサ、黙想、(8月、11/1 月を除く))

⑦祈りの集い：下記土曜日 13:30~16:00 場 所：S. J. ハウス第5会議室

講話、黙想、ミサがあります。

9/9. 10/21. 11/18 12/9. 2001. 1/13. 2/24. 3/10

⑧黙想会：8/25. (金) 夜~9/1 (金) 14時・ 9/15 (金) ~9/17 (金)

⑨アガペ会：説明会と集い・下記の日 13時30~ 1/22. (20代~40代の信者)

10/4 (土) 2001. 1/20 (土)

以上、問い合わせ・連絡先：クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S. J. ハウス

直通電話 03-3238-5124、5111(伝言)、FAX, 03-3238-5056

Ⅶ 三位一体の聖体宣教女会東京修道院

場 所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5 TEL.042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会「聖書で祈る」

申し込み先…… 佐々木明子

指導：雨宮 慧師（東京教区司祭）

対象：一般信徒

2000, 10月28日（土） 5:30PM ~ 10月29日 4:00PM

2001, 2月24日（土） 5:30PM ~ 2月25日 4:00PM

召命を考える祈りの集い

指導：星野正道師（カルメル会）

対象：女子青年信徒

2000, 10月 8日（日） 5:30P.M. ~ 9日（月） 4:00P.M. （一泊になりました）

2001, 2月11日（日） 5:30P.M. ~ 12日（月） 4:00P.M. （〃）

黙想会

指導：星野正道師（カルメル会）

2000, 11月29日（水） 10:00A.M. ~ 4:00P.M. *対象：一般信徒一日黙想

大聖年・聖書に親しむ集い

講師：シスターマグダレナ

*対象：信徒

テーマ：2000年に向けて 御父、御子、聖霊との交わり

一秘跡を通して一 毎月最終木曜日 2:00P.M. - 3:30P.M. *7.8.9.12月除いて

キリスト教講座（カトリックの教えを学びたい方） 毎木曜日 10:00A.M. ~ 11:30A.M.

十字架の使徒職の集い

*対象：信徒

期 日：第一グループ 毎月第2金曜日（2:00P.M. ~ 3:30P.M.）

第二グループ 毎月第1木曜日（2:00P.M. ~ 3:30P.M.）

両グループ*司祭のために聖体礼拝を捧げます（1:30PM~200PM）

Ⅷ マリアの御心会（明泉会）

場 所：〒160-0012 東京都新宿区南元町6-2 TEL.03-3351-0297

I. 黙想会 担当：シスター今村和子

①聖書深読黙想会—主日の福音を中心に—

隔月・日曜日 10:00A.M.~5:00P.M.

②黙想と祈りの集い テゼの歌をうたいながら

③霊操による祈りの集い

指導：長町 裕司師（イエズス会） 毎月第3土曜日 6:00~8:00P.M.

II. ①聖書会 …詩編を読む… 毎月第1月曜日 10:00 ~ 12:00.A.M.

②聖書通読講座 木曜日 6:30~8:30P.M.

IX 聖心会黙想の家

場 所：〒410-1126静岡県裾野市桃園 198 Tel&Fax. 0559-92-2120

祈りの集い（問合せ・申込は聖心黙想の家まで電話/FAXで！）

- 午後のひととき、静かに過ごしてみませんか？

（当日黙想の家の玄関に表示します。）

黙想会のお問い合わせ・お申し込みは：165-0033東京都中野区若宮3-9-4

若宮共同体 TEL.03-3337-3291

X. 『心のいほり。内観瞑想センター』『代表 藤原直達神父（大阪教区司祭）

〒553-0006 大阪市福島区吉野4-24-15 +福島教会内

*TEL/FAX 03-4804-5361

予定表 2000, 10/2 ~10/7 京都・精華町 10/16 ~10/21 横浜・茅ヶ崎
11/6 ~11/11 沖縄・与那原 11/13 ~11/18 横浜・茅ヶ崎
11/26 ~12/2 兵庫・ひばりが丘
12/11 ~12/16 横浜・茅ヶ崎 12/25 ~12/30 横浜・戸塚

*活動内容。定期的に各地で内観黙想の同行指導と講演。

内観の希望者は手紙かファックスで問い合わせ手ください。

I. コングレガシオン・ド・ノートルダム 〒182 東京都調布市下石原3-55

黙想会 : 神の呼掛けに耳を傾けてみませんか。 ☎(0424-82-2012)

テーマ：修道召命を考える

FAX(0424-82-2163)

日 時：（受付～

対 象：

場 所：

参加費：

申込み：

修道召命の黙想会

テーマ：修道召命を考える

指 導：西本裕二神父様（サレジオ会）

日 時：9/30（土）16:00 ~ 10/1（日）16:00

対 象：20代～30代未婚の女性信徒

参加費：2,000円（宿泊費、食事、等）

持参品：聖書、筆記用具、洗面道具

申込み、問い合わせは9月25日（月） S r. 秋山

場 所：〒182-0034 東京都調布市下石原3-55

TEL(0424-82-2012)

コングレガシオン・ド・ノートルダム

FAX(0424-82-2163)

京王線調布駅南口より徒歩15分～20分 . タクシーで5分

悪しきをば拂ひのけつつ

善きのみをとりてぞ進む道説く者は



マリア安達留子遺稿集

萩の歌より

上野毛、宇治、大分

カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

聖テレジア修道院（黙想）は、カルメルの霊性を体験し深めたい方のためのものです。黙想会、研修会、練成会などに御利用下さい。個人でも団体でも御利用頂けますが、必ず事前に御連絡の上、お申し込み下さい。なお、詳しい御問い合わせは、下記へお願いいたします。

※☎158-0093

東京都世田谷区上野毛2-14-25

☎ : 03-5706-7355

FAX : 03-3704-1764

東急大井町線：「^{かみのげ}上野毛駅」下車徒歩7分

※☎611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山39-12

☎ : 0774-32-7016

FAX : 0774-32-7457

京都駅よりJR奈良線：「^{ろくじぞう}六地藏駅」下車徒歩15分

京阪バス：六地藏の町並バス停より^{おくらやま}御蔵山行きに乗り

「西住宅バス停」下車徒歩5分

※☎870-1152

大分市上宗方1800-3

☎・FAX共：0975-41-4012

大分駅～バスで18分、大分川を渡って^{あかつきはし}明碓橋を右折

男子跣足カルメル修道会

お 願 い

投稿くださるときには、だいたい、次のようにしていただけますと幸いです。

1. 締 切 り 毎月10日
2. ①各グループの 目的 或いは 主旨
②月間 或いは 年間予定：研修、黙想など具体的計画
③随想、こぼれ話など。「断想」「陽あたり」とか小題をつけて
④その他 自由ニュースをお送りください。
3. ワープロ。 なお、手書きの場合は早目にお送りください。
4. 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただく場合があります。お赦してください。
5. 寄稿連絡は星野正道神父宛てにおねがいします。

・ニュース（霊性センターニュース）をご希望の方は 中尾豊子宛 に郵送御希望の月数分の220円切手又は現金を送ってください。（これには封筒代等が含まれています。）

中尾 豊子 〒224-0041 神奈川県横浜市都筑区仲町台 3-15-5
☎045-941-3566

あ と が き

「霊性センターニュース」も奥村神父様の時代以来、常に変わらぬご理解とご支援をいただき心から感謝申し上げます。今後もこの小さな種が皆様の暖かなご協力のもとに、すこやかに成長していくようお祈りください。

なお、“一口一円”の呼びかけで始まった献金も、神様の御手の中で大きな助け手、働き手となってきています。ご協力、本当にありがとうございます。

喜びと悲しみ、日々の小さなことがらを通してイエス様が働きかけ、共に生きてくださいますように、お祈りいたします。

カルメル会霊性センター

星 野 正 道